

**第 2 6 回能美市地域公共交通会議  
議事録**

日時：平成 30 年 7 月 13 日（金）10：00～12：00

場所：能美市役所本庁舎 1 階 大会議室

参加者：

	所 属	氏 名	備 考
学識経験者	金沢大学理工研究域地域社会基盤学系・系長	高 山 純 一	会長
議会	総務常任委員会委員長	田 中 大 佐 久	欠席
市民又は 利用者代表	辰口地区町会長会 会長	山 本 徹	
	寺井地区町会長会 会長	東 方 俊 一 郎	
	根上地区町内会長会 会長	吉 田 良	
	北陸先端科学技術大学院大学 総務課長	柴 田 裕 司	
	石川県立寺井高等学校 教諭	森 田 久 俊	欠席
	能美市老人クラブ連合会 会長	田 中 悠 紀 夫	新任
	能美市婦人団体競技会 顧問	田 中 玉 美	
事業者	能美市 P T A 連合会 副会長	山 岸 千 恵	新任
	小松バス（株） 専務取締役	新 谷 良 二	
	加賀白山バス（株） 取締役社長	茜 栄 成	
行政	大和自動車交通（株） 営業所所長	酒 井 敬 治	
	国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局 主席運輸企画専門官	木 村 幸 典	新任
	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 主幹	今 村 友 紀 枝	
	石川県南加賀土木総合事務所 維持管理課長	本 多 巖	
	寺井警察署 交通課長	村 本 寛 之	新任
	能美市 副市長	細 川 喜 孝	副会長
	能美市 企画振興部長	橋 場 和 彦	新任
	能美市 産業建設部次長兼土木課長	喜 多 邦 夫	新任
事務局	能美市 健康福祉部福祉課長	川 本 素 子	新任
	能美市 企画振興部地域振興課長	中 出 真 弓	
	能美市 企画振興部地域振興課主任	長 田 史 彦	
	（株）計画情報研究所 取締役	四 藤 一 成	
	（株）計画情報研究所 研究員	三 澤 志 織	
	（株）計画情報研究所 研究員	須 田 暁 憲	
	（株）計画情報研究所 研究員	竹 内 千 瑛	

## ■議事

### 1. 開会

【司会（中出）】：

ただいまから第26回能美市地域公共交通会議を始めさせていただきます。本日の進行役を務める、地域振興課の中出と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。「会議次第」、「委員名簿」、「能美市地域公共交通会議設置要項」、「座席表」、「資料1」、「資料2」、「封筒」、「能美市のよりよい地域公共交通の実現に向けたアンケート調査」、「別紙1」、「別紙2」、「夏休み企画 『のみバス』に乗ってのみの魅力を発見しよう!」チラシ、「能美市公共交通ガイド」です。不足はございませんでしょうか。

なお、本日は地域公共交通の再編について検討に協力いただいております、株式会社計画情報研究所も出席しております。

それではお手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。初めに、会議開催に先立ち、能美市細川副市長からご挨拶申し上げます。

【細川副市長】：

みなさま、おはようございます。本日は第26回能美市地域公共交通会議にご参集いただき、誠にありがとうございます。今年度初めての会議です。異動等もございましたので、新しく委員になった方もいらっしゃると思います。本日の会議の内容といたしましては、まず今一度、能美市における公共交通の現状・課題等について共通認識を図っていききたい、ということが第一です。事務局の方から、『のみバス』を中心として能美市の地域公共交通のあり方を議論していくということで、この地域公共交通会議の中で、分科会を作り、能美市に合った地域公共交通をきちんと作っていききたい、と考えています。

最近、地域公共交通をテーマとした記事等が目につくようになりました。先月は、日本経済新聞の「やさしい経済教室」に人口減少時代の地域公共交通が掲載されておりました。また政策情報誌「毎日フォーラム」の今月号でも、公共交通のあり方がメインテーマとなっておりました。公共交通というのは、当然能美市においては『のみバス』ですが、補助金もかなり投入いたしまして、交通事業としては、単体では赤字になりますが、公共交通はその交通事業単体で考えるのではなく、市政全般で考えることが必要だと思われれます。例えば環境政策の面では自動車からの転換による環境負荷の軽減や、商業施設、地域政策と絡むと思うのですが、地元の消費支出の拡大であったり、賑わいの創出であったりとか、これは本筋だと思うのですが、社会政策としては、運転ができない人も移動の確保、そういうことで、多様な政策を公共交通によって担っており、能美市にとって非常に大事なインフラであります。

皆様方には、少し負担をかけると思われるますが、分科会で能美市に合った地域公共交通のあり方を議論いただき、しっかりと住みよい能美市づくりにご尽力いただければと思っています。本日はよろしくお願いいたします。

【司会（中出）】：

ありがとうございました。続いて、当会議の会長である、金沢大学の高山純一教授からご挨拶いただきます。

**【高山会長】：**

私が能美市の地域公共交通会議に関わって10年経ちました。合併前に、ごぎっせ倶楽部というのがあり、そのときに走らせていたバスの頃から関わりを持っています。元々は、3町がそれぞれコミュニティバスを走らせていて、合併を機に、3町に横串で連携バスを走らせたのが、『のみバス』の成り立ちです。細川副市長からお話がありましたように、地域公共交通単体では、事業がなかなか成り立ちません。大都市の鉄道やバスは、それなりの収益を生むため、市営は厳しいかもしれませんが、私立の事業者は黒字経営をしているところもあります。しかしタクシーを含めた地方のバス会社はなかなか厳しいのが現状だと思われます。

能美市の『のみバス』も、100円の収益を得るのに500円以上かかっている中、なぜそのような事業をするのか。能美市の市民窓口について考えたとき、住民票や所得証明などいろいろな証明書を出す際に300円～500円程度を手数料として支払っています。ではそこで働いている市役所の職員の給料をまかなえるかという決してそんなことはないのですね。行政の市民サービスの一つだと考えれば、『のみバス』も非常に大事な市民サービスの一つととらえることができます。特に交通インフラとして考えたら、ソフトなプランです。普通は道路だとか柱とか、鉄道だとか、そういう公共交通を担うインフラというのは固いものが多いのですが、ソフトのインフラだと考えれば、非常に重要なものだと思います。そういう意味からすると、この地域公共交通会議は非常に重要な役割を持っています。ここでは主に『のみバス』のことだけしか議論しませんが、本来であれば公共交通全般ですので、JR、それから路線バス、タクシー、そういうものも全て含めて検討しないといけないと思っております。そのうちそういう話も出てくるかと思いますが、今日は、能美市長も加わって検討したアンケート調査の内容について、少しご議論いただきたいと考えています。私も国や県、市町村の委員会に関わっていますが、市長自らアンケート調査を検討したのは初めてのケースだと思われます。普通は担当者にお任せの中、それを市長自らアンケートの内容まで吟味されたのは非常にすごいことですし、市長の思いがこの地域公共交通会議、あるいは『のみバス』に入っているのだと思います。そういった意味では、地元からのいろんな要望をきちんと拾い上げて、『のみバス』の再編につなげたいというのが思いですので、ぜひそれぞれの代表の方が出ておられますので、地域の代表としてのご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

**【事務局（中出）】：**

ありがとうございました。続いて、新任の委員を委員名簿に沿ってご紹介させていただきます。

—事務局より委員紹介—

なお、本日は能美市議会総務常任委員会委員長の田中委員と、石川県立寺井高等学校教諭の森田委員は、所用のため欠席です。

これ以降の議事進行については、設置要綱に基づき、高山会長にお願いします。

**【高山会長】：**

それでは議事を進めさせていただきます。まず報告事項の「平成30年度能美市地域公共交通検討業務の実施について」、資料1が準備されています。資料1に基づき、事務局より説明をお願いします。

—事務局より資料説明—

資料1 平成30年度能美市地域公共交通検討業務の実施について（事業説明）

【高山会長】：

後ほど、感想や質問も含めてご意見を頂戴したいと思います。

資料1をもう一度見ていただけますでしょうか。3ページに『のみバス』利用者数の推移が示されています。『のみバス』は平成20年4月からスタートしましたが、平成23年～平成25年に比べ、平成26年～平成29年では、全体として2万人程度利用者が減少している。連携バスではそれほど大きな変化が見られないが、循環バスはトータルとして減少しています。他の自治体でもよく似ているのです。金沢市のふらっとバスしかり、特に能登ではかなり減少しています。せっかく運行しているのに。10年前に比べ特に免許を持ったお年寄りが増えてきた事情があります。要は、バスを利用しなくても良いお年寄りが増えてきたというのが実態です。逆に言えば、今までバスに乗っていた方が、バスに乗れなくなったり、あるいは亡くなってしまったりということで、徐々に地域のコミュニティバスの利用者が減ってきているのが実態です。これを放っておくと、あと5年、10年すると、さらに免許を持った方、高齢者でも全部免許を持った方、ということになってくると、本当に75歳を過ぎたり、80歳を過ぎたり、85歳を過ぎて、ちょっと自分で運転が厳しいなと思うようになって初めて、免許を返納する。でも、免許返納したけれど、まだ歩けるし、買物にも医者にも行きたい、となったときに、バスが本当に重要になってきます。ただこのままいったら、5年後、10年後までバスを維持できるのか、というのがまた一つ大きな課題であります。そういう考えを普段から最低限少し、毎日乗れとは言いません。私なんか今日飲み会ですが、そういうときには車を家に戻して、そこからもう一度来たり、今日は能美市へ来ないといけませんから、車で来ましたけれども、普段は少し不便ですが、不便といったら怒られますけれども、駅まで行って、そこから北鉄バスに乗って、大学まで行くと。飲み会のときはです。そうすると1時間ですよ。だいたい1時間くらいで行けますので、まあまあ、ギリギリ我慢できるくらいであるかなと。で、この『のみバス』も、本来そうやって地域活性化のためには、どんどん飲み会を作っただけだと、利用者も増えるかなと思います。少し時間的に余裕があるとか、車でなくても行けそうな、コミュニティバスを使って行けそうなところには、100円で行けるわけですからね。往復でも200円です。非常に安い。きっとガソリン代より安いはずなのです。『のみバス』を使えば。だからそういう気持ちで本来利用していただけるように、市民全体の意識を少し変えて行く必要がこれからは重要になってくるのではないかと思います。

路線バスもそうなのですが、能美市の場合は路線バス、ほとんど通過の路線バスですので、能美市だけで云々、ということはないのです。他の自治体に行くと、自治体内だけを走る路線バスもあります。交通事業者もそこそこ収益があれば、そこからどんどん抱き合わせでなんとか赤字路線でも我慢して運行していただけるということがあるのですが。さすがに能登に行くと、赤字補てんを自治体をお願いしても、さらに運行ができなくなります。背景は、運転士さんがいないということ。だんだんいなくなってきました。今はなんとか60歳定年で、再任用で65歳までとか。頑張って70歳までお願いしていますが、さすがに70歳を超えるとちょっと、というのがありますので、そうすると、これから5年10年すると、おそらく今のままで行くと、運転士さんがいなくなってしまう。当然その頃に、国が頑

張っている自動運転のバスとか自動運転の車が本当に実用化されればまた別問題ですが、今見ていると、私の見る限り、おそらく10年後にはそういう車は走りますが、完全自動運転で運転者なしで動けるかちょっと不安です。ジュネーブ条約もありますし。ハード的にそういう車ができたとしても難しい。それと、皆さんの車もそうだと思うのですが、自動運転の車ができたらそちらに全部すぐ乗り換えるかという、そうはいかないですよ。きっと10年位かかるのです。乗り換えするのに。要は自分の車が動かなくなるまで。丁寧に乗っている人は15年、20年乗りますから。私の車もそろそろ10年過ぎましたので、あと3~4年乗らないといけないかな、と思っています。そう考えると、やっぱり変わっていくまでに、それくらい時間がかかる。そう考えると、おそらく殆どの車が自動運転になったとしてもこれから20年かかると私は見えています。バスは少し違いますが、そういう時代をもう少し早くしてほしいですが、そこまでの間をどうするかというのが非常に大きな課題です。それともう一つは、自動運転のバスやら車できて、今の価格でそれが買えるかという、なかなかそうはいきません。うちの大学でも自動運転の車を開発しています。あまりいくらしているか、はっきり言いませんけれども、私のざっとした感覚で、当初は5,000~6,000万円です。いろんなものを入れたりつけたりして。今でも3,000~4,000万円します。それが大量生産で値段が下がってきたとしても、今のファミリーカーの200万円、300万円で買える大台になるのは、相当先かなと思います。まあ、普通の価格はファミリーカーですが、中身は高級車くらいの値段にならないと、一般的に普及するまでには少し時間がかかるかなと。それと、その頃になると、個人で車を所有するというのではなくて、シェアリング。カーシェアリングと言ったりし、共同で利用するようになる。そういう形になればいいのかなと思います。地域で何台かあって、そこで配車の予約をする。自動運転ですから、予約をすれば来てくれますから。そんな時代が来るのではないかなと思っています。すこし高額ですから。そうすれば車自体の数も有効に減らしていける。現在ほとんど世帯に1台あるいは個人に1台の車使用です。その車をどれくらい利用しているか考えてください。一日24時間の中で、車に乗っている時間、多い人で2~3時間ですよ。多い人で。たいてい、行き帰りで1時間。あるいは1時間半くらいというのが、普通の人の利用です。要は、駐車場で眠っている、車庫で眠っている時間が圧倒的に多いので、そう考えるとものすごく無駄。自動車会社にとってはいいですよ。たくさん売れますから。そうじゃない時代がくるのではないかな、と思います。まあ、そんなことも含めて、そういった時代になる前に、この『のみバス』がなくならないように、皆さん考えなければいけないのかな、と思っています。

今日は、能美市の『のみバス』の現状、再編のために市がどのように考えていて、アンケート調査をするのか、それから地域活性化のために、安心サポートを入れるとか、あるいはそれぞれの分科会を作ってもう少しいろんな活動をしたい、という説明でした。この説明をお聞きになって、それぞれ感想やご質問をお願いします。

それでは順番に、市民・事業者代表で、まず辰口地区町会長会会長の山本委員からご発言をお願いします。

**【山本委員】：**

たいへん分厚いアンケート調査を見させていただきました。実際、アンケートの回答をする方の中には、全く利用していないという答えもかなり出てくる可能性が高いのではないかと。その時に、これからの世代である高校生、JAISTの皆様アンケート調査もあるため、そちらの結果も見せていただけるような形になれば、また何かひとつ前向きな形も出てくるのではないかとこの思いです。

【高山会長】：

ありがとうございます。全員の方にお答えいただけると、能美市にお住まいの方が普段どんな行動をしているのか、どういう生活スタイルをしているのか。車を利用しているのか、『のみバス』を利用しているのか、あるいは自転車なのか歩きなのか。それから、普段どこで買い物しているのか、どこの病院に行っているのか、そういうことも含めて書いていただけることになっていきますので、非常に貴重な資料になると思っています。

続いて寺井地区町会長会会長の東方委員、お願いします。

【東方委員】：

アンケートの問5、問6は回答が大変だと思われます。問5は通勤または通学先のある方が回答し、通勤または通学先の無い方は2に丸をつければ、交通手段や頻度は書かなくてもよいということでしょうか。また問5はすぐに書けると思われるが、問6は答えづらいと思われます。

また7ページの「一般の方のアンケートは以上です」という言葉が気になりました。いきなり「一般の方」と出てくると、「これなんや？」という話が出てくるのではないか、という感じがします。だから本当は、以下は65歳以上の方と、高校生だけが答えればいいですと。一般の方、一般ってなんだろう、という話になりそうだなと思います。

高山会長の最初の挨拶の際に、営業係数が500円であるという数字が出ていましたが、連携バスと循環バスそれぞれではどのような数字になるのか少し参考にさせていただきたいです。

【高山会長】：

ありがとうございます。営業係数について、事務局からお答えできますか。そこまで集計していますか。連携バスの経費と、循環バスの経費、利用実績はわかっていますから。収益は1回100円なので、いくらの収入になっているかわかるので。

【事務局（長田）】：

収入の中には、定期券の販売等による収入もあるため、循環バスと連携バスを分けた経費を正確に出すことは難しいので、営業係数については、循環バスと連携バスを合わせた全体の数字をご報告します。運賃のみの場合、平成27年度は526円、平成28年度は518円、平成29年度は500円である。広告収入や補助金を含めると、平成27年度は348円、平成28年度は329円、平成29年度は339円という実績になっています。

【東方委員】：

営業係数の中には償却費も入っていますか。

【事務局（長田）】：

償却費は含まれていません。年間の運行委託費に加え、定期点検等の修繕費は含まれています。

【高山会長】：

ありがとうございます。続いて、根上地区町内会長会会長の吉田委員、お願いします。

【吉田委員】：

根上地区の吉田です。根上地区は、JR 能美根上駅があるため、あまり寺井・辰口方面へは行かないのではないかと考えられますが、やはり地元に着して充実させたほうが良いと思います。例えば飲み会以外ですが、辰口であった場合には、短時間でいけないこともあるので、利用したくても利用しにくい、ということもあろうかと思えます。

アンケートについては、私のところにもよくアンケートが来るのだが、書かないこともあります。100%書いてもらうようにしなければ、アンケートはよくなりません。またアンケートの回収方法が気に入っています。アンケートを送付しても、自動車を持っている人は関心をもたずアンケートを出さない方もおそらく出てくると思われるため、できるだけ回答いただけるように、市の職員の方も努力していただきたいと思えます。

【高山会長】：

ありがとうございます。資料1の3ページを見ると、根上地区の循環バスの利用者が多く、積極的に乗っていただいているのではないかと考えられます。

【吉田委員】：

根上地区の循環バスは運行本数が多く、30分でバスが帰ってくる、という感じです。おそらく乗車密度という点では他の地区とそこまで変わらないのではないかと考えられます。

【高山会長】：

その辺りも含めて今後、事務局には解析をお願いします。1便あたりの乗車人数は出していますか。

【事務局（長田）】：

手元に細かな資料はありませんが、1便あたりの乗車人数は出しています。

【高山会長】：

ありがとうございました。続いて、北陸先端科学技術大学院大学総務課長の柴田委員、お願いします。

【柴田委員】：

JAIST の場合は、学生や留学生が多いという特徴があります。アンケートをして、配っていただけるということで、寺井高校の生徒さんは通学とかでたくさん使われていると思うのですが、JAIST の場合は寮というのもあるとあって、『のみバス』利用状況等を見ていると、全体に申し上げて、あまりご期待に添えるような結果が得られないのではないかと考えられます。寺井高校や JAIST の学生にアンケートを配布する分科会で、積極的な意見が出ると思われるため、そちらで協力したいと考えています。

先程の話にもありましたが、どれだけ経費がかかっているのかを明らかにすると、利用者にもまた利用しなければ、という意識にもつながるのではないかと考えられます。

【高山会長】：

ありがとうございます。先ほどの乗車人数の件ですが、別紙2の最下段に年間の乗車数推移と1便あ

たりの乗車数が記載されています。1便あたりの乗車人数が多いのは、平成29年度では、根上地区が5.8人、寺井地区が5.2人、辰口地区が3.7人であり、辰口地区が若干少ない。連携バスは路線が長いため、1便あたりの乗車人数が10.0人と、利用者が多くなっています。しかし経費は、路線が長い分だけかかっています。その辺りを、別紙2の資料から見ていただきたいと思います。

続いて、能美市老人クラブ連合会会長の田中委員、いかがでしょうか。

**【田中委員】：**

今回初めて地域公共交通会議に参加したため、何を話したらよいかわからないところがありますが私自身は78.7歳であり、アンケートの様々な設問から少し考えていました。今年、免許を更新したばかりであり、次回の更新まで2~3年の期間があります。更新時に気になったのは認知機能テストです。認知機能テストはどうかクリアしたが、免許証をいつ返納したら良いかについては、まだ免許証を手放す気持ちはありません。

先般、NHKのクローズアップ現代という番組で、高齢者ドライバーに対し、家族が3つのお願いをしていた。1つ目は、スピードを出さないこと。2つ目は遠出をしないこと。3つ目は暗くなったら乗らないこと。この3つをクリアできなかつたら、免許を返納してくださいと言っており、なるほど、と思って聞いていました。しかし現実には免許を返納するのはなかなか難しい、と自分自身は思っています。そういう歳になっていますが、免許更新し、免許返納問題について、老人クラブの中でもこれから理事会等で話をしながら、会員の中から犠牲者、あるいは加害者を出さないことを考えていく必要があると思っています。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。免許返納の問題は私も非常に難しいと思っています。私事で恐縮ですが、私の母親が今年の秋で87歳になり、一人暮らしをしています。3年前に免許を更新して、まだ免許証は有効ですが、この春に、自分の運転に自信がなくなったのか車に乗らなくなり、愛車の軽自動車を廃車にしました。ただ、私や弟が近所に住んでおり、毎日、買物や病院の送り迎えのサポートをしているので、車がなくても暮らしていけます。老夫婦二人暮らしや一人暮らしで周りにサポートする人が誰もいない状況になると、本当は自動車に乗りたくなくても乗らざるを得ない状況があります。それをある程度サポートするのが、『のみバス』ではないかと思われます。『のみバス』が非常に重要なものだと思われます。いただき、一日に4~5本しかバスが来ないが、利用して維持していくことが大事だと思っています。

では続いて、能美市婦人団体協議会の田中委員をお願いします。

**【田中委員】：**

婦人会では免許を持つ方が多く、『のみバス』に乗ろうという意識がないと思われます。今後自分たちもいずれは『のみバス』に頼らなければならない時期が来ると思うため、まず会員で、『のみバス』に乗ってみて、どこが不便なのかなどを理解する体験ツアーをやってみようかと考えていました。

私の母親も86歳で、昨年免許を更新しました。山の方の地域に住んでいるため、畑などに行く場合、『のみバス』に乗っても畑に行けないため、どうしても自分の車で移動しなければならないという現状があります。やはり自分で運転に自信が無くならないと免許は返納できないのではないかと思われます。私も隣の町内に住んでいるため、「病院などに連れて行くよ」と声をかけますが、老人クラブ連合会会長の田中委員が言われたように、暗くなったら乗らないなど（ルールを決めたい）。現在は暗くても乗って

いますが、別々に住んでいる手前、どうしたらいいかな、という不安のほうが先立っています。

婦人会としては、会員で『のみバス』に意識を持っていきたいと考えているため、ここで聞いた話を会員の皆さんに伝えていきたいと思っています。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。能美市 PTA 連合会副会長の山岸委員はいかがでしょう。

**【山岸委員】：**

私は小中学校 PTA の代表をしています。私は辰口地区に住んでおり、小・中・高の子どもがいます。小中学生に関しては、『のみバス』に乗ってどこかに行く、ということはあまりしていないように思われます。中学生は主に自転車で動いており、小学生に関しては地区内での移動が多いので、保護者の方が送るなどしています。ここに書いている対象の高校生の子どもは、私も毎日松任駅まで送っています。中学生の娘も金沢の中学校に通っているため、二人の送迎をしています。路線バスで通っている方もいますが、辰口地区に住んでいると、小松方面に行こうが、金沢方面に行こうが、どこかまで送らなければ学校に通えないというのが高校生の現状です。小松市の高校に行くのであれば、寺井地区の小松バスが来るところまで毎日送っています。朝、子どもが金沢方面のバスに乗って学校に行っても、運行本数が少ないため、帰りは南部車庫まで迎えに行かなければならないというのが辰口地区の現状です。寺井高校に通う子は自転車利用が多いと思います。また、鶴来駅から電車に乗る方は、JAIST のバスを利用されているお子さんもいらっしゃいます。その方が便利だという声を聞きます。本数が多いということもあるのでしょうか。

高校生へのアンケートを、本当に大きいと思います。しかし、高校生に宛てても、おそらく書かないような気がします。このアンケートは保護者宛てではありませんか。高校生のところにアンケートが行っても、きっと本人自身よりも保護者のほうがとても関心があると思います。

**【高山会長】：**

アンケートには高校生自ら書いていただく箇所と、保護者に書いていただく箇所が両方あります。

**【山岸委員】：**

アンケートの宛先は子ども宛てでしょうか。

**【事務局（長田）】：**

アンケートの宛先は子ども宛てです。

**【山岸委員】：**

保護者に宛てたほうが、おそらく保護者も気をつけて、開けるかもしれないと思います。また関心のある保護者は開けるかもしれないが、関心のない保護者もたくさんいます。

**【細川副会長】：**

補足ですが、高校生については、県立高校に通学している方については、石川県教育委員会を通じて、学校から、ぜひとも書いていただくようにと、協力依頼をしています。

【高山会長】：

ありがとうございました。続いて、事業者の方が3名来られていますが、いかがでしょうか。先程の説明の中で、今年は大雪があり、7日間ほど運休したという話もありました。

【茜委員】：

『のみバス』を運行している加賀白山バスです。冬場は7日間運休となりましたが、なんとか7日間で運休を止めることができたと思っています。私共の車庫は鶴来にありますが、車庫の雪かきから始まり、車庫から出るために大変な苦勞をしました。

ただいまの内容については、わかりやすく、素晴らしい資料だと思いました。特に資料1の4ページの世帯分布に関する状況図を初めて見ましたが、すばらしい斬新な発想だなと思い、いろんな状況がわかる資料なので、参考にさせていただきたい。アンケートについても、市民の皆様のお声ということで私共も楽しみにしている反面、どんなお声が来るかなという怖さもあります。

高山会長が先程おっしゃっていた、能登地区の運転手不足は、金沢地区でも深刻であり、私共もかなり深刻な状況です。これ以上路線を増やすという話であればどのように対応しようか、という状況が正直なところでは、おそらく後ほどお話も出てくると思いますが、タクシーなど、いろいろな交通手段ございますが、いろいろ絡めながら、その辺りの多様化もまた変わっていき、それもまた議論になっていくかと思いますが、なんとか『のみバス』の運行を頑張っていきたいと思っていますので、またよろしく願いいたします。

【高山会長】：

ありがとうございました。続いて小松バスの新谷委員はいかがでしょう。

【新谷委員】：

詳細なご説明、ありがとうございました。アンケートの内容について、かなり踏み込んだ部分まで設問が設定されているため、集計並びに分析を楽しみにしています。

アンケートは、どのくらいの方が回答すると想定されているのかお聞きしたいです。

【事務局（中出）】：

統計上は300という数字がアンケートでは有効ということになっています。高校生については、前回のアンケートの回収率を考慮すると、2～3割程度を割り込むのではないかと想定し、全ての高校生を対象としました。18歳から64歳の方については、他のアンケートの回答率を加味して、300名を目標にし、1,100名に配布した。高齢者についても同様の考えです。

【高山会長】：

ありがとうございました。続いて、大和自動車の酒井委員をお願いします。

【酒井委員】：

大和自動車の酒井です。タクシー事業については、公共交通の中でバスの次の段階のものになりますので、今回のこの趣旨とちょっと、次の段階でのことになるとは思いますが、個人的なことではございます。

います。私は今年で60歳になり、嫁と娘の3人家族で、車が4台ございます。そのような家庭にこのアンケートが来た時、どのように書くかという思いもあります。公共交通に関するアンケートですので、現在の環境の中で見ると、設問の期待に添えるような回答が書けないのです。正直に申し上げれば、『のみバス』は見たことがあるが、乗ったことは家族も一度もないはずです。そのような家庭にこのアンケートが来たとき、何かこうヒントになるような設問ももう少しいただけたら、一助になるのではないかと思います。

**【高山会長】：**

今のご発言にあったように、おそらく能美市民の中で半分以上の方が『のみバス』に乗ったことがない方かな、と思います。しかし、1ページはフェイスシートであり、通勤・通学の状況も書いていただくこととなります。また次の2~3ページも、直近一ヶ月間の平日あるいは休日に、どこで何をという生活スタイルを書くことになっています。ここだけでもきちんと書いていただければ、それだけで参考になるものです。自分に関係ないと捨てられるのが一番困るため、そうならないように、町内会を通じて案内を出したり、再依頼のはがきを1枚送るという形でご協力いただける工夫はしたいと思っています。ありがとうございます。

行政の委員の方から、何か気になってぜひご発言したい、ご意見したい方がいればお願いします。

**【木村委員】：**

石川運輸支局の木村です。バスの管轄全般を行っています。今日のような形で、細かいところ、住民の方の意向を踏まえて、丁寧な検討プロセスを踏まえていただいて、バスの方を運行していただきたいと考えています。国も、検討のプロセスを非常に重視しています。公共交通は、今はどこを優先するかというのを今までこちらの通達でもはっきりしていませんでしたが、今年の春に、まず町にバスやタクシーがあるならばそこを優先しなさいということではっきりと国の方でも定めるようになっています。

また、お願いになりますが、地域というのは、バスの車両自体が小さいものになると思います。いろんな細かい道路を通ることも多いと思うのですが、小さい集落であったり、歩道が無いようなわかりにくい道路もありますが、そういったところの通行に関しては、安全な運行を国も重視しているため、その辺りも配慮した運行ルートの設定もお願いします。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。そのほかに事務局に質問したいことがあればお受けします。では事務局から何か連絡事項があればお願いします。

**【事務局（長田）】：**

—資料説明—

資料2：「平成30年度（社会実験事業）あんしん移動サポート事業について」

**【吉田委員】：**

アンケートの回収方法について、例えば町内会に頼むとか、乗った人から回収するとか、老人会の会員の人が書いてきたものを回収するとか。社会福祉協議会のものでも、町内会の班長でもらってくると、100%近くなるのではないかなと思います。うまいこと団体と連携した方がいいのではないかなという思

いですが、町内会の仕事も増えてしまう面はあるのですが、その方が100%になると思います。

**【東方委員】：**

寺井地区老人会体育大会に私も出ていましたが、あの場でどれだけ通じたか、という話もあります。できるだけこまめに老人会の寄り合いを探して行くことが一番良いのではないのでしょうか。

**【山本委員】：**

東方委員が言われたように、一番いい形としては、各町会にあるいきいきサロンのような会場を活用すれば、来られているすべての方が該当になる年代だと思われるため、細かくはなるが、活用したほうがいいと思います。いきいきサロンも、例えば私の町会の場合では、今年度は何をしたらいいかと、新しい話題を考えているため、このような事業を今年から始めたということであれば、有効でないかと感じています。

**【田中委員】：**

老人会としましては、運動会とか、グランドゴルフの場に来て話をしてもなかなか身につかないと思います。市老連の理事会、何回かやっております。7月15日に寺井の社会福祉協議会の中で理事会をいたしますので、10分～15分の時間をとっていただいて、説明していただければと思っておりますが、市老連のほかに老人会としましては、各支部、寺井、辰口、根上に支部長がおりますので、その支部長配下の理事会、寺井、辰口、根上の理事会でもこの話をしていただければと思っております。

**【事務局（長田）】：**

ありがとうございました。頂いた意見を参考に、周知活動も積極的に行っていきます。もしこのような場所で周知をしてほしい、といった意見がありましたらご助言いただきたいと思っております。また皆様からも、「あんしん移動サポート事業」について積極的に周りの方にご周知をお願いします。

—資料説明—

「夏休み企画 『のみバス』に乗ってのみの魅力を発見しよう！」について

**【高山会長】：**

それでは進行を事務局にお返しします。

**【事務局（中出）】：**

本日は長時間にわたりご意見いただき、ありがとうございました。アンケートの回収方法につきましては、改めて検討させていただきます。また安心移動サポート事業についても今後の参考にさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。これで第26回能美市公共交通会議を終了します。どうもありがとうございました。